

## コース図の作成

### (1) 旧街道とコース図の関係

コース図を作成するにあたって、どんな地図をつくるかと言う視点が時間とともに変わっていったため、何回かの修正を行なった。

当初から旧街道を意識はしていたが、最初は走りやすいコースを選んだ。近畿で知っているところなら旧街道の現状も雰囲気もわかるし、現地に行って調査することも出来る。しかし、3000キロ以上ある大会コースの下調査は無理だろうと思った。「歴史の道調査報告書」を見たりしても、昭和50年代に出来た物もあり、通行出来るかどうかは判らない。走った事のある人も、踏破記録を書いている人も大勢いたが、どのコースが通れるのかやはり漠然としていた。言葉だけの説明が多く、地図がないのがどうしようもなかった。

旧街道がどこコースなのか、通過出来るかどうかは行ってみなければ判らない。

試走会をやってみて不思議なことに気が付いた。大会コースと廃止された旧道を表記した地図を作成した箇所では、参加者は旧道を探し、その探すことが楽しんでいたのである。目的地に楽に行けるコースを設定した意図とは全く逆の事だった。少し離れた名所・旧跡は遠慮するのに、旧道を探索するのは不思議だった。

また一方、旧道を記入していない箇所は当然の如く大会コースを躊躇することなく、参加者は走り抜けた。旧道を地図に落とす段階で廃道と思われるものは、地図に記入せず迂回ルートだけを記入したからだ。記入するかどうかは、呼び掛け人の作成時期にもよるし、その時々不安定な判断基準で作成した。

なるべく安全に迷わず安心して走れるコースを考えると迂回コースを選んでしまう。地形図に点線表示すらない山道などは大会コースにするには勇気がいる。

しかし、試走会などで、そんなコースでも案内板があってちゃんと整備されている箇所も多くあった。一番心配したのは、大会コースを迂回ルートとしたばかりに、それを旧街道だと思い込んでしまうことです。走りやすいコースにと配慮したものが、次の段階ではそれが旧街道だと認識され続けられることです。あっさりと、「旧街道も含んだ走り易いコースを採用した程度の大会です」と言い切れればいいのですが、余りにも旧道を採用し過ぎています。そして、参加者も旧道を期待しているようです。

地図のある街道本と言われるものにも、作者と違う意味で理解されるケースがきっとあるでしょう。このコース図も、どういう扱いを受けるかわかりませんが、せめて参加者には理解出来るようなコース図にしたいと考えています。

呼びかけ人が、コースを自由に設定するものではないと今は思っています。原点に戻り、通行出来るかどうかは、突入するかどうかは現地で判断したらいいし、旧道があ

るということは地図で示すのが地図作成者の務めだと判断しました。

日本縦断では、試走会と違いどれだけの人が旧道探索に力を入れるかは判らないが、旧道を今一度見直すことは、大会の途中、旧道らしき道を見つけてランナーがどうするか判断材料になればと思い修正・追記しました。

道は変遷の歴史です。全く同じ状況にある道はないでしょう。コースを変えたり、道路幅を拡げたり、舗装などを変えたり、時代の変遷を受けています。街づくりでコースが変わったり、川など自然災害で変わったりもしますが、交通手段の変更によるものが影響は大きいでしょう。鉄道、車の登場により歩く手段のみの時代は終わりました。現在生き延びている旧道も、何らかの存在意義があって残っています。道路幅を拡げて車を通行出来るように改造し、普通の道と同じように生活道路となったりして存続しています。山道区間などは車の通行可能なコースと全く違うコースになったため、廃道になるケースが多い。峠に地蔵があったために地域の人を守った街道に出会った時は感慨深いものです。

事前配布したコース図を手を持って、下調べする参加者もあります。また、GP選定者も同じように、コース図を頼りに今一度歩いてGPを探しますと嬉しい便りがきます。こちらも、それに応じるような地図作りをしなければいけません。

## (2) 旧道コースの選定

### 1. 歴史の道調査報告書の基本採用

各府県が発行している「歴史の道調査報告書」を基本的に大会コースに採用した。これは、昭和53年から始まった全国的に進められた「歴史の道」を記録・保存する目的で各都道府県教育委員会が調査発行した報告書です。現在もなお発行している府県や、今まで全く発行していない府県もあります。報告書様式も府県によってはかなり違います。

府県教育委員会による調査報告書は、費用と調査陣容を整え、何と言っても古地図・古文書など一般に見られない資料を裏づけとする調査報告書は私製のものとは一線を期します。

次のような府県の違いによるバラつきはあるものの、今大会では調査報告書をコース選定の一番手にし、他の資料で補完しました。

- |          |  |
|----------|--|
| ①コース図の縮尺 | 5千分の1, 2万5千分の1, 5万分の1                            |
|          | ・5万の地図を、今回の大会地図2万5千に置き換えようとする、出来ない場合や確認出来ない場合がある |
|          | ・逆のケースでは、コースが細か過ぎて2万5千に落とし切れない                   |
| ②廃道の記入   | 殆ど現道を選定し廃道記入無しの県, 廃道を丁寧に記入した県                    |
| ③複数のコース  | 旧道でも当然時代変遷があり, 新旧複数併記している県もある                    |
| ④発行時期    | 昭和50年代のものから, 最近のもの発行があり, 改訂は殆どない                 |

## 2. 調査報告書のない街道の場合

### ①調査報告書を全く発行しない府県

茨城県, 神奈川県・京都府・広島県

### ②調査報告書を発行しているが, 今回のコースを発行していない府県

宮城県 (仙台～南県境), 東京都 (日光街道・東海道), 神奈川県 (東海道)

愛知県 (津島上街道), 兵庫県 (中国街道), 福岡県 (山家～南県境)

これに該当するコース箇所は, 一般の発行するいわゆる街道本に頼らざるをえません。東海道, 日光街道などは一般的で今井金吾氏をはじめ多数あり, コース選定もしやすいのですが, それ以外は非常に根拠本が少ないのが現状です。旧街道コースも多種あり, 読み比べる, 旧版地図と見比べる, 現地調査するしかありません。

## (3) 今大会コースの記入方法

以上のように多様な街道コースがありますが, 走る大会ですので大会のコース図を次のような記入方法で作成しました。

### ①1本の大会コースを選定し距離表示しました。

100m単位の点線表記でコースを示し, 1キロ単位で距離表示した。

### ②旧街道を出来る限りコースにしました。

通行可能と思われる旧街道を出来る限りコースに設定しました。

ただし, 現状道路と非常に近接・重複している場合は, 同じコースと見なした。

### ③通行不能な箇所, 通行不能と思われる箇所は, 近くの迂回ルートを設定しました。

迂回コースを大会コースとし, 距離表示した。

### ④大会コースでない旧街道は, 細かい点線表示した。

大会コースが旧街道か, そうでないか判るようにしました。

試走会などで現状では通行不能と確認した箇所には, 上記点線上に (×印) 表示した。